

もくせい通信

木津川市立相楽台小学校

令和7年7月22日(火)

令和7年度 研究主題

ゴールに向かって主体的に学び続ける国語学習 ～それぞれの想いを発信し、対話力を磨く児童～



7月22日(火)、京都府総合教育センター研修・支援部より、横江 孝洋研究主事兼指導主事にお越しいただき、「小学校国語科教育講座」を受講しました。

国語科の学習では、正確に理解し、適切に表現することのサイクルが大切です。話す・聞く・書く・読むのつながりを意識して、教科全体を捉えましょう。自分の考えを持ち、それを他者に伝えたい気持ちを持たせます。矛盾・違和感に出会わせ、少し不協和で不安定なものに触れさせることが、興味や関心を持たせることにつながります。全員が授業参加するためには、教材研究を中心とした指導の工夫が必要です。安心して参加できる雰囲気を作りましょう。



講座では、6年「やまなし」より、「クラムボン」は、何なのかを考え、近くの人と交流しました。生き物ではないと考えた人が多数でしたが、叙述に基づくと、生き物だと考えることもでき、多様な考え方に触れました。切実感のある謎・矛盾・疑問が存在することが、学習の必然性を生むと聞き、普段の計画・指導を振り返りました。教材研究・授業をするときには、言葉から疑問を持つ・持たせることに重きを置くことを学びました。いわゆる「読み取り」の時間が限られる環境の中、どこを、どれだけ深く読み取らせるかを考えさせられる研修でした。

